

## 2013年度同志社大学大学院司法研究科入学試験問題解説 小論文

### 第1問

我が国の国際的競争力の低下が指摘されるなか、国際的に見ても異常なまでに進行している少子高齢化や財政赤字の生じる原因について、引用した文章を参考にしつつも、自論を論理的に表現できる能力を問う問題である。

極端に不出来な答案はなく、全体的には良くできていた。以下に、解答例と採点の指針を示す。

### 解答例

少子高齢化とは、退職者などの高齢者が増え続ける一方で、これを支えて働く現役層や若年層、子供世代の人口が減り続ける現象である。政治も経済も不透明な時代では、社会全体の未婚率が上昇するとともに、既婚者も生み控えることで、出生率が低下する結果、少子化が進行する。少子化は必然的に高齢化を招くから、少子化の進行は、やがて、総人口の減少を招き、高齢者の比率だけが増加していく。そして、少子高齢化は、税収も減少させるから、財政赤字増大の原因ともなり、現役世代の負担も増加させていく。現役世代の不透明感は増加し、少子化はますます進行していくとともに、財政赤字も深刻化していく。

私は、少子化の進行、すなわち出生率の低下こそが「異常な少子高齢化・異常な財政赤字」の根本的原因であるにもかかわらず、それに対する効果的対策が採られてこなかったことが、この異常事態を招いた原因と考える。以下、対策が採られてこなかった原因について述べる。

必要な効果的対策は、将来を見据えた、持続的な対策であり、異常な財政赤字のもとでは、痛みを伴う施策でもある。そして、対策が少子化対策である以上、痛みは高齢者に生じる対策である。しかし、政治家にとっては、現在の有権者それも自らの選挙区の支持者こそが大切であって、支持者に痛みを伴う施策は採用できない。加えて、政治家にとっては現在において選挙権のない将来世代の運命は二の次である。さらに、高齢化社会で有権者も高齢化すると、政策もますます高齢者寄りになる。少子高齢化対策上、不可欠なものであっても、高齢者の負担につながる施策はこうして先送りされてきた。

高齢者のための施策を実行するための国債発行であれば、支持者は反対しないから、将来の世代が分けるべき税金を、まえて現世代が現在の社会保障制度を維持するために使ってしまうことであるにもかかわらず、世代間の利害調整機能を放棄したにみえる政治は、借金を将来に残す国債発行にも歯止めをかけずにきた。選挙に基づく民主主義が、選挙本位の政治に堕し、選挙権のない世代も含む世代間の利害調整を踏まえた長期的対策を実行し得ないことが大きな原因である。(895字)

## 採点の指針

文章表現能力、叙述の論理的展開力を中心に評価するものとし、知識自体を評価することとはしない。また、論点主義に立たないよう留意する。

## 第2問

やや古い文体の読解力を問う問題である。授業で大審院判決からの抜粋を音読してもらうことが偶にあるが、古い文体をきちんと読みこなすことができる人は、法学の学習でも伸びる傾向にあるので、その実力を試すことにした。

本問では、自由の本義の意味を問うているにすぎず、外部の矩と区別されるところの内部の矩に従うべきかどうかや、その理由は何かを問うているわけではない。この点を誤解している答案が散見された。しかし、全体的には良くできていた。以下に、解答例と採点の指針を示す。

## 解答例

内部の矩とは、自らに内在する思想、信条、良心をいう。ただし、啓発されていない精神に由来する思想はこれに当たらない。外部の矩とは、法律や風俗習慣のような外部から来る要求、強制をいう。外部の矩に従うと、世間から排斥、侮辱、圧迫を受けないので、社会的な自由は享受できるが、それは自由の本義ではない。自由の本義は、自分の欲するところに従っても内部の矩に反することにならない境地をいう。(188字)

## 採点の指針

内部の矩の定義 20点 (思想・信条・良心の明示が不十分なものは10点)

啓発されていない精神との区別 10点

外部の矩の定義 20点 (法律や風俗習慣が明示されていないものは10点)

自由の本義 20点 (内部の矩に従うこととしているものは10点)

外部の矩に従うことによって表面上得られる自由との区別 10点

特に良ければ、印象点 20点